

文教厚生常任委員会会議録

日 時 平成30年5月16日（水曜日）10時00分～10時26分

場 所 議員控室

出席者 磯野委員長、小寺副委員長、阿部委員、逢坂委員、寺沢委員、森議長

オブザーバー 金木議員、平山議員、熊谷議員、船本議員、村田議員

事務局 井上事務局長、杉野係長

磯野委員長

文教厚生常任委員会を開催いたします。

本日の議案は、羽幌小学校グラウンド及び市街地区教職員住宅整備事業についてであります。では、担当課のほうから説明をお願いします。

1 羽幌小学校グラウンド及び市街地区教職員住宅整備事業について

担当課説明

説明員 学校管理課 春日井課長、近藤係長

春日井課長 10:00～10:06

それでは、羽幌小学校グラウンド整備及び市街地区教職員住宅整備事業の現在の状況について資料に基づいてご説明をさせていただきます。

初めに、経過のほうなのですが、国の交付金、教育施設の交付金要望のほうを行うのですけれども、そちらのほうの要望につきましては昨年の6月に当初要望を行っております。その後11月に再調査があり、再調査についても交付金要望を行っております。今年の4月に入りまして内定の通知がありましたが、羽幌小学校グラウンド整備及び市街地区教職員住宅の建設については、両方とも交付金の採択がされなかったという状況になっております。

理由につきましては、今回の採択方針の区分としまして、特別支援学校における事業、バリアフリー対策事業、学校統合等に係る事業、耐震化事業、緊急性の高い長寿命化改良事業、緊急性の高い空調設備事業、老朽化の著しいトイレ改修工事、その他児童・生徒の安全確保を図るための事業という区分の最後に上記に該当しない事業という全部で8区分の採択方針があります。その区分の中で羽幌小学校のグラウンド整備及び市街地区教職員住宅整備事業につきましては一番最後の上記に該当しない事業ということで、今回は採択されなかった状況となっております。

続きまして、事業の内容ですけれども、羽幌小学校のグラウンド整備事業につきましては、事業内容は、グラウンド面の暗渠敷設、排水溝の敷設、表土入れ替え、芝の植生、各種競技用マーカーピンの敷設、捕球柵の部分入れ替え、水飲み場の建て替え、砂場の設置、鉄棒の設置、物置の建て替え、トイレ及びフェンス並びに鉄柱の撤去となっております。工事期間及び事業費につきましては、下の表になりますが、30年度の工事費で1億4,145万9,000円、財源といたしましては、交付金が2,000万円、起債が1億740万円、その他財源としまして1,405万9,000円となっております。

続きまして、市街地区教職員住宅の整備事業につきましては、事業内容は、羽幌小学校、羽幌中学校教頭住宅の建設2戸となっております。工事期間及び事業費につきましては、下の表になりますが、30年度工事費で5,738万1,000円、財源といたしましては、交付金が2,303万6,000円、起債が2,550万円、その他財源としまして884万5,000円となっております。羽幌小学校グラウンド整備事業につきましては、当初交付金で2,000万円を財源として予算計上しております。市街地区教職員住宅整備事業につきましては交付金約2,300万円を計上しておりましたが、それぞれ交付金の該当にならなかった状況ということになっております。

続きまして、今後の対応といたしまして、対応案なのですけれども、羽幌小学校グラウンド整備事業につきましては、平成29年、30年度で羽幌小学校校舎、校舎周辺の工事が終了する予定となっております、残っているのはグラウンド整備だけという状況になっております。そういう状況から、資料の矢印の下のほうに表がございますが、工事期間が平成30年7月から11月下旬、30年度の工事費を1億4,145万9,000円、財源を交付金をゼロ、起債を1億2,740万円、その他財源を1,405万9,000円と変更しまして、30年度に工事を実施したいと考えております。

次に、教職員住宅につきましては、羽幌中学校の教頭住宅は既に解体しておりますけれども、現在入居可能な教職員住宅があること、それと羽幌小学校の教頭住宅につきましては既存のものがまだ残っている状況から、次年度につきましては再度交付金の申請を行うということで考えており、今年度については建設をしないというふうに考えております。

続きまして、3番目の羽小グラウンド整備事業費の変更についてですけれども、事業費の変更については、先ほどご説明しました事業費に651万2,000円増額となっております。理由といたしましては、砂利の購入について、初山別村有明プラントからの購入で設計しておりましたが、有明プラントの撤退により、遠別地区から購入するため、運搬費等が増額したためとなっております。資料の矢印の下の表になりますが、30年度の工事費を先ほどご説明した事業費から増額しまして、事業費を1億4,797万1,000円、財源といたしましては、交付金をゼロ、起債を1億4,130万円、その他財源として667万1,000円として、平成30年度実施する予定になっております。なお、予算の増額部分等につき

ましては、6月補正予算で計上し対応したいと考えております。

説明については以上でございます。

磯野委員長

ただいまの説明に関しご質問、ご意見等ありましたらお受けいたします。

— 主な協議内容等（質疑） — 10:06～10:26

小寺副委員長 まず、不採択になったのは残念なことなのですが、そういうのがわかったのが4月19日で、それ以前にはそういう情報というか、4月19日以前にはわからなかったものなのでしょうか。

春日井課長 状況はわかりませんでした。

小寺副委員長 今回の変更については、当初から交付金があって計画していたと思うのですが、なかったときはこういうふうに事前に起債を組んで実施する予定であったのですか。

春日井課長 羽幌小学校の改築に係る交付金と天売島における教職員住宅の交付金がずっとついてきた経緯がありましたので、教育委員会といたしましては交付金がつくというような考えで進んできましたので、つかなかったときの場合とかは想定をしていなかった状況になっております。

小寺副委員長 今回2つとも不採択になったのですが、先ほど教職員住宅に関しては既存の職員住宅で対応できたりですとかという説明があったのですが、グラウンド整備については起債を増額してやりたいということなのですが、グラウンド整備も緊急を要しているわけではないですし、本当に危険でどうしても今年やらなければいけないというふうには自分は思わないのですが、その辺、なぜグラウンドはやって、こっちはやめる、その違いはどういう違いなのでしょう。

春日井課長 グラウンド整備を今年度やりたいというのは、今まで羽幌小学校の校舎の改築、体育館の整備等を進めてきまして、残るのはグラウンドだけと

いうことで、タイミング的にはここで一括施設を整備することが一番好ましいのではないかなということ、グラウンドについては直接子供たちが使う施設ということなものですから、できるだけよい環境で整備したいなということで今回こういう判断をしております。

小寺副委員長 いろんなパターンを考えたと思われるのですけれども、グラウンドを先送りするという考えもあったのでしょうか。

春日井課長 協議の中では、グラウンドを先送りするというのは、基本的に原則交付金がかからない事業については実施しないという考えがありましたのでその選択肢もありましたが、今回はこういう形で進んでいると。

小寺副委員長 2,000 万を起債で組むというのは、大きい金額だと思うのです。交付金で国からいただける金額、割合もそうですけれども、大きいので、そのお金は別に使うことも可能ですよね。そうなったときに、急いでやるのか、教職員住宅のように次年度もう一回提出してということも考えられるのではないかなと。子供たちのためという話でしたけれども、グラウンドだけではないので、さまざまな整備もできる金額なのではないかなと思うのですけれども、繰り返しになって申しわけないのですけれども、2,000 万の重み、今の予算、全体の財政、お金がないと言われている財源の中で2,000 万を増額してもしなければいけないという理由が今の説明だけでは納得ができないのですけれども、追加でもしあれば。

春日井課長 当初、両方の事業が内定がもらえなかったときに、協議の中で、交付金をもらう場合と起債だけでいった場合、起債の場合70%が戻ってくるという部分もありますので、事業費の試算をしております。小学校のグラウンド整備につきましては、町の持ち出しが交付金を使うよりも500万円程度増額になると。起債に持っていった場合、教職員住宅については、同じように試算をしたところ、同じく500万円程度町の持ち出しがふえるという試算をしたものですから、合わせると1,000万程度の持ち出しということになりますので、それについては町の全体予算を考えたときに金額として大きいということで、小学校のグラウンド、先ほど言った、繰り返しになりますけれども、タイミングとしては、校舎を全部整備し

て、グラウンドも全部整備するのが一番効率的ではないかなということ
で、そういった判断をしたという状況になっております。

逢坂委員 今のに関連してなのですが、先ほどの課長のお話では、グラウンド整備
については、教職員住宅も同じなのですが、採択ランクが低いと。一番
低いランクであると。緊急性のあるものはどんどん採択されていくけれ
ども、こういう整備だとか新築の住宅については一番低いランクだと。
という、仮に2つやらないで来年同じように申請しても、つく可能性
はまた低いという考えなのか、その辺の考えはどうなのか。国のほうも
その辺をきちっと、補助というのは国のほうの考え方なのだけれども、
聞けば、今年我慢していただいて、来年何とかしますとか、僕も行政を
やっていたときに聞くのです。ただランクが低いからつきづらいとかで
なくて、1年待っていただければとかということもあり得るので、その
辺町はどのように考えているのか。子供のために今年やりたいというこ
とはわかるのですけれども、2,000万を単費で出すとなると結構な金に
もなるし、いろいろとまたふえた金もあるので、その辺をどういうふう
に考えているのかお聞きしたいのですけれども。

春日井課長 交付金、例えばグラウンド整備を今年やらないとか、教職員住宅とあわ
せて来年度に持っていった場合は、国のほうもしくは道のほうに確認は
していないのですけれども、今年度と同様になろうかというふうに教育
委員会では考えております。繰り返しになりますけれども、羽幌小学校
の改築事業という1つを捉えたときに、グラウンド含めて全て継続的に
やっていきたいという考えが強いということで今回の考え方になってお
ります。

逢坂委員 また私の経験上から言うのだけれども、国の補助、道の補助は一生懸命
申請、頼みに行けば、2年目だとか3年目だとかつくのです。幾らラン
クが低くても。その辺一生懸命町が努力して、2,000万という金は、ほ
かのものに使うときには、例えば何かやるといったら2,000万というの
はすごい金額ですよと言われて、財源がないからできないとかというふ
うになるわけだけれども、補助の申請というのは一生懸命やれば、結構
理解してくれて、つけてくれるのです。そういうのは一生懸命やってい

るのですか。担当課長という立場にいて、直接国のほうに行くことはないと思うのだけれども、その辺はどうなのですか。一生懸命やることが僕は大事だと思うのだけれども。

春日井課長 過去の経緯から申し上げますと、羽幌小学校の改築事業がスタートするときにはかなりの高額な金額になっていたので、いろんな場面を通じてどうしても内定をいただきたいという動きをとっていたのは事実です。ただ、先ほども申し上げましたが、天売島の教職員住宅がついてきたという経緯もあったものですから、その辺は逢坂委員言われるように、動きが少なかったということは事実だと思っています。今後その部分、情報等も得ながらそういう動きをとっていききたいなというふうに考えております。

阿部委員 まず、グラウンドの部分でお聞きしますけれども、交付金がつかなかったということと、あと遠別のプラントから砂利を購入するということですけれども、交付金がつかなかった、あと運搬費等々が増額するとなった中で、そのまま同じ金額でやっていいのかどうなのかという部分も気になるのですけれども、交付金がつかなかったらその分工事費を圧縮するなり、そういった可能性というのはなかったのでしょうか。

春日井課長 先ほどの事業内容の中で、グラウンドの整備内容につきましては学校等とも協議した中で最低限やらなければならない内容だということで、事業内容のほうは変更しないで進めるという考えで進んでいるところです。

阿部委員 内容を見れば暗渠の入れ替えなり排水溝といった部分で工事費がかさむのかな、そのとおりにいかないといけないのかなというのはわかりますけれども、その他の部分で少し仕様を変更するなりなんなりということも話し合いとしてはなかったのか、その辺伺います。

春日井課長 もともとこの事業内容につきましては、トイレを今あるものを撤去して校舎のほうに使うだとかという形で、最低限の整備という形で進めてきましたので、極力はこのままの形で進めたいということで、その辺の協議のほうはしておりません。

阿部委員　　これ以上の工事内容なり予算の修正は不可能ということで捉えておいていいということですね。

春日井課長　不可能ということではないのですけれども、整備内容としてはこういう形で教育委員会のほうとしては進めたいというふうに理解いただければと思います。

阿部委員　　次は教員住宅の部分なのですけれども、次年度に再度交付金の申請を行うということなのですけれども、先ほど説明あった事業区分に該当しないから今回だめだったということなのですけれども、来年度また同じように申請してつかなかった場合というのは、交付金なしで起債といった財源でやる考えなのか、その辺伺います。

春日井課長　来年度、もし仮に、先ほどちょっとお話出ていましたけれども、今までやっていなかった努力のほうも少しやっっていかなければならないのが出てくる部分もあります。それとあわせて、そういう状況を行った上でもつかなかった場合については、現時点では起債でやるのか、もう一年見送るのか、もしくは国の状況をもう一回見て見直すのかという部分については検討しておりませんので、未定の状況となっております。

阿部委員　　こういった建設工事というのは、地元の建築業者さんにすれば当てにする部分なのです。4月の頭には年度の工事計画等もホームページにも出ていましたし、皆さんこういうのが出るのだというのがわかっていたと思うのです。今回なくなるとなると地元の業界にとってはすごい負担になってくるのですけれども、浮いた分はどうするのかということも考えるというか、教育委員会だけでは話は難しいのかもしれないですけれども、別の本来やるべき工事もあったと思うのです。継続してやらなければならない建設、土木、改修工事等もあったのに今年度やらなかった。では、そっちのほうに今回使わなかった部分を回してでもいくのか、そういうふうにして少しでも建築業界のほうに仕事を出すように、その辺の話し合いとかは庁舎内ではしているのでしょうか。

春日井課長 その辺の話し合いはしておりません。

阿部委員 繰り返しになりますけれども、今すごい建築業界は厳しい時代になってきていますので、どうしても公共工事に依存してしまう部分も多いかもしれないですけれども、その辺ぜひいろいろな方面から話し合っていたらなと思います。

寺沢委員 交付金が不採択だったという報告なのですが、不採択の理由については、いろんなランクがあって、一番最後のその他、そういうところで不採択になったのではないかというような分析をされていましたよね。もう一つ聞きたいのは、国が持っている予算があればさまざまな事業に対して交付金がつけられるのでしょうかけれども、限られた予算の中で優先順位の高いものから採択していくわけでしょうからつかないものも出てくるということで、予算が減っているということも考えられますよね。その辺は把握していますか。

春日井課長 申しわけありません。今回の理由を確認したときに、国のほうの申請状況だとか予算の昨年と比べてという部分について国については確認しておりません。

寺沢委員 そこら辺も非常に重要な部分だと思うのです。予算が削減されているとすれば、同じような形で申請をしてもまた不採択ということも十分考えられるので、さっきの方の発言にもありましたけれども、交付金自体どこまで頼るかというような検討も同時に考えていかないと、交付金がつかない場合にはやらないという、そういう原則があるという説明もございましたけれども、ずっと教員住宅を建てられないということにもなりかねないので、そこはきちっと分析をして今後対応していかなければならないというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

春日井課長 交付金のほうの傾向だとか動向等を確認しながら進めていきたいというふうに思っております。

小寺副委員長 先ほどの話の中で、前提として交付金がつかないものは行わないという

のが前提にあると。それは、教育委員会だけではなくて町全体の方針と
いうか、僕もそういうのを見たことがないのですけれども、それがあ
ることなのですか。

春日井課長 私の認識では、いろんなケースが考えられますので、一概にそういうル
ールで縛るといふような認識はしていないのですけれども、基本的には
財源がきちっと確保できて事業を実施するといふふうに捉えています。

小寺副委員長 今回は、特例ではないですけれども、その前提を崩してもやるといふこ
とですよね。

春日井課長 そういふことになります。個人的な考えも入っている部分はあるのです
けれども、羽幌小学校の校舎だとか一切改築をしていない中で、グラウ
ンドだけこれから状況が悪いものを整備するといふようなものであれば、
また状況は変わったのかなといふふうにも考えております。今、校舎を
建てて、体育館を整備して、1つの流れとして一回完了させる必要があ
るのでないかなと思っているところであります。

磯野委員長 ほかにありませんか。いいですか。(なし。の声) あとは今後本会議等で
発言できますので、そのときにまたお願いしたいと思います。では、い
いですね。
本日はご苦労さまでした。これにて文教厚生常任委員会を終了させてい
ただきます。